

# 声を出そう・文字を声に変える

国語監修・執筆

中澤匠吾

## ■ 今回のポイント

- ① 呼吸法と姿勢
- ② ピッチを意識した音読
- ③ さまざまな文章を読んでみよう

### ① 呼吸法と姿勢

相手にしっかりと声を届けるための準備をします。背筋を伸ばしリラックスした状態で、腹式呼吸による発声を練習しましょう。また、発声のウォーミングアップとして、早口言葉に取り組んでみましょう。

### ② ピッチを意識した音読

聞き手にわかりやすく伝える読み方について学びます。ただ声を出すのではなく、文の構造を理解し、意味のまとまりを意識して読むことがポイントです。意味が明確になるように適切な間（ポーズ）を取ったり、音の高低（ピッチ）を調整したりして読むことの必要性を理解しましょう。

### ③ さまざまな文章を読んでみよう

音読のポイントをふまえて、長い文章を読むことに挑戦します。さまざまな文章を読むという実践を通じて、どんな注意点があるのかを確認し、また、どんな工夫が必要なのかをとらえましょう。

## ■ 今回の言語活動

### ■ ピッチを意識して読む

例文を読んで、実際にどのような注意が必要なのかを確認していきましょう。

### 例（1）

緊急の課題として認識する必要があると言っています。

この文の場合、ピッチは高↓低という意識で、一息で読み下していきます。

例〈2〉  
四と六の二倍はいくつになりますか。

例〈3〉  
大きな実のたくさんなっているリンゴの木。

この二文を読むときには、間の置き方をどのようにするのがポイントです。区切り目をどこにするのかによって、文意が変わってきます。

例〈4〉  
蜜柑畑の真ん中を流れる小川の横には昔母さんが通っていた小学校がある。

この文は、一息で読むのは困難な例です。文の途中でピッチの調整が必要です。その際には文の構造を意識して一箇所間を置き、ピッチを立て直します。読み方の例については、番組で確認しましょう。

■実際に文章を読んでみよう

まとまった文章を読んではいきます。番組では、角田光代さんのエッセイ「待つということ」を読んではいきます。まずは二人一組となつて読み合い、互いに評価し合ってみます。読み手と聞き手の両方の立場になることで、どんなところに注意点があるのかに気づくことができます。

最後には、みんなで順に文章を読み継いでいきます。練習の成果は表れているでしょうか。

🔊 音読のポイント

文章の中にはさまざまな変化があります。その変化に応じて、読み方にも工夫をすることで、聞き手にわかりやすいものになります。

- 視点の変化……筆者（語り手）の視点で記述されている文（地の文）と、登場人物の視点で記述されている文（会話文、セリフなど）を讀み分けます。スピードや声の調子を変えることが効果的です。
- 場面の变化……意味や内容のまとまりによって「段落分け」がなされています。段落と段落の変わり目、つなぎ目が明確になるよう、適切な間を置くことやスピードを変化させることが効果的です。



■ 今回のまとめ

言葉によるコミュニケーションとして、「話す」ことは重要な手段のひとつです。日常的な会話以外にも、例えばインタビュをしたり、スピーチをしたり、面接を受けたりするなど、生活や学びの中において、声を使った表現を必要とするあらゆる場面に直面することもあるでしょう。今回の学習は、そうした声による表現の技術を学んでいく基礎となるものです。まずは、さまざまな文章を声に出して読んでみましょう。そして、その実践により、自分自身の課題を見つけて音声表現の力を磨いていきましょう。